

稲垣 博司 (いながき・ひろし) 先生 エイベックス・マーケティング株式会社 代表取締役会長、
 エイベックス・エンタテインメント株式会社 取締役
 関 佳裕 (せき・よしひろ) 先生 エイベックス・エンタテインメント株式会社 執行役員

稲垣先生

1941年12月12日生まれ。三重県出身。早稲田大学卒業。
 1964年、渡辺プロダクション入社。1970年、CBS・ソニー株式会社
 (現ソニー・ミュージックエンタテインメント)入社。
 以降、代表取締役副社長、ソニー・マガジズ社長等
 グループ会社要職を歴任。1998年、同グループ退社、
 株式会社ワーナーミュージック・ジャパン代表取締役会長に就任。
 2004年、同社退社。
 現在はエイベックス・マーケティング株式会社代表取締役会長、
 並びにエイベックス・エンタテインメント株式会社取締役。
 一般社団法人日本レコード協会副会長。

【参考】日本レコード協会HP <http://www.riaj.or.jp/>
 日本音楽著作権協会HP <http://www.jasrac.or.jp/>

関先生

1997年入社
 現 エイベックス・エンタテインメント株式会社執行役員
 第2音楽事業本部(※1)本部長 兼 音楽事業統括室(※2)統括室長

※1: 第2音楽事業本部の主要アーティスト:

EXILE・浜崎あゆみ・倅田来未・東方神起・m-flo・BoA・レミオロメン・
 My Little Lover・坂本龍一・GACKT

※2: 音楽事業統括室:

2つの音楽事業本部に所属する全アーティストについての広報関連を司る部署。
 ・楽曲のタイアップ獲得に向け営業する「タイアップルーム」
 ・新聞やテレビ報道を管理する「PR 統括ルーム」
 ・CD等、製品のテレビスポットを管理する「メディア管理ルーム」で構成されている。



《講義概要》

エイベックス・マーケティング株式会社代表取締役会長並びに、エイベックス・エンタテインメント株式会社取締役である稲垣博司氏とエイベックス・エンタテインメント株式会社執行役員である関佳裕氏が、音楽産業の歴史や音楽ビジネスについての講義を行った。

講義では、まず、稲垣氏が日本の音楽産業の歩みについて、詳細な資料を提示し、時代を代表するヒット曲を流しながら時代背景を織り交ぜて分かりやすく説明した。また、深刻化する著作権問題、再販制度維持の必要性、日本音楽のアジア進出など、音楽産業の今後の課題を示し、学生に考えるきっかけを与えた。

関氏は、エンタテインメントに関わる多様なビジネスを一つのプラットフォームとして展開する「360度ビジネス」について解説し、プロデューサーの視点から今後のレコードビジネスのあり方を説いた。加えて、「アーティストをどこまで愛せるか、知っているかが大切」、「アーティストの才能を信じている人がいればエンタテインメント業界はもっと拡大する余地がある」、「息吹あるものは絶対に売れる」など、今後のエンタテインメントの展開にとって重要なキーワードとなる考えを示し、学生は信念を持って取り組むことの大切さを学んだ。

《受講生の感想》

●日本の音楽産業の流れがととてもよく理解できました。音楽を流していただき、時代背景を並行して説明していただいたのが分かりやすかったです。360度ビジネスの話が印象に残りました。アーティストの活動の場が広がるのは面白いことだと思います。時代のニーズに合わせた音楽のあり方というものがあるように感じました。音楽産業の工夫が必要だと思いました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●各時代に音楽の特徴があり、音楽が時代の流れに寄り添いながら進化を遂げていることが分かり、大変興味深いお話を聴くことができました。レコード産業は現在厳しいと言われていますが、マネジメントの分野でさらにビジネスチャンスを獲得していくことができると気付かされました。自分も周りもダウンロードやレンタルの利用が主要になっており、レコードを買う機会というものは少し減っていますが、この講義を通じて、形に残るものとしてレコードを買うことについての意義について考えさせられました。

立命館大学・映像学部・3回生

●稲垣先生の「音楽は文化だから安売りしてはいけない」という言葉と、関先生の「とことんどこまでそのアーティストのことを愛せるかが大切」という言葉に大変感銘を受けました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●日本の音楽産業の歩みを見て、ヒットする曲はその時代の特徴を掴んでおり、時代性を表していると感じました。それだけ私たちと音楽は距離が近く、音楽は人の心を動かすものであると思います。「業界は厳しいけれど息吹を吹き込めば必ずヒットする」という関先生の言葉が心に残りました。アーティストの才能を様々なビジネスへと展開していく360度ビジネスに大変興味を持ちました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●360度ビジネス展開についての説明は具体的でとても分かりやすく、考えさせられました。アーティストを多角的に売り出すということは、その前提に、様々な方向から売り出せる才能や魅力ある人材を選び育てる必要があります。アーティストもレコード会社も音楽のみだけでなくマネジメントなどの工夫が必要であることが分かり、現在の音楽業界の厳しさを考えさせられました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

●日本のアーティストの海外進出について「もっと“日本のオリジナリティー”“日本らしさ”を発揮するべきである。」というお話しが印象的でした。また、現在音楽業界で最も大きな問題である、配信化の加速と違法ダウンロードが今後どのような流れになっていくのか非常に興味を持ちました。

立命館大学・映像学部・3回生

